

## 平成 24 年度第 1 回博物館懇談会議事録

日 時：平成 24 年 6 月 27 日（水）17 時～19 時

場 所：野田市市民会館 松竹梅の間

出席者：懇談会委員・生田武士、宇佐見節子、沼野秀樹、茂田井宏、米川幸克。郷土博物館長・関根一男、同学芸員田尻美和子、佐藤正三郎、大貫洋介、柏女弘道（書記）。同事務員澁谷由梨子。野田文化広場事務局長・金山喜昭（アドバイザー）。

### 1. 博物館懇談会趣旨説明

金山喜昭野田文化広場事務局長より趣旨説明。

・当館では 5 年前より NPO 法人野田文化広場が指定管理者として運営をしている。委員の方々にお配りした『公立博物館を NPO に任せたら』は NPO 法人の立ち上げから現在までをまとめた本。

・直営時代は館長の諮問機関として博物館協議会という組織があった。委員は学校の校長や市会議員、学識経験者が務めていた。市役所で割り振った委員構成で実りある内容にはなりにくかった。これは全国の博物館で共通の問題である。

・NPO で運営していく中で、博物館協議会に代わる組織としてこの博物館懇談会を設け、市民の方々から博物館の日頃の活動について意見をいただく機会としたい。

### 2. 博物館職員、懇談会委員自己紹介

博物館職員自己紹介

・関根一男館長。野田に生まれ育ち、醤油一筋にやってきた。平成 21 年 4 月より勤務している。

・田尻美和子学芸員。NPO 法人の立ち上げ準備のころから関わっており、平成 19 年 4 月の指定管理受託開始時から学芸員として勤務している。これまで展覧会としては平成 19 年度市民コレクション展「土人形の魅力」や平成 21 年度特別展「建築家山田守と野田市郷土博物館」などを担当した。

・佐藤正三郎学芸員。平成 20 年 3 月から学芸員として勤務している。これまで展覧会としては平成 21 年度市民の文化活動報告展「まちなみ提案 文化の駅・野田」や平成 23 年度特別展「野田の煎餅」などを担当した。

・大貫洋介学芸員。平成 22 年 4 月から学芸員として勤務している。これまで展覧会としては平成 22 年度市民公募展「わが家のおひなさま」や 7 月から始まる平成 24 年度市民アート展「陶芸」などを担当している。

・柏女弘道学芸員。平成 19 年 4 月の指定管理受託開始時から学芸員として勤務している。これまで展覧会としては平成 19 年度市民コレクション展「土人形の魅力」や平成 21 年度特別展「建築家山田守と野田市郷土博物館」などを担当した。

・澁谷由梨子事務員。NPO 法人の立ち上げの頃に参加し、平成 19 年 4 月の指定管理受託開始時から事務員として働いている。学芸員資格も所持。市民会館の季節のしつらいなども担当している。

・金山喜昭野田文化広場事務局長。NPO 法人野田文化広場の事務局長をしている。現在は法政大学キャリアデザイン学部の教授をしているが、かつて学芸員や館長補佐として 18 年間野田市郷土博物館に勤務していた。

### 懇談会委員自己紹介

・沼野秀樹委員。沼野仏具店店主。30 年ほど前野田市役所に入庁し、20 年ほど前に沼野仏具店に婿入りして跡を継いだ。

・米川幸克委員。米澤屋店主。我孫子出身。自動車整備専門学校で教員を経て、米澤屋に婿入りして跡を継いだ。野田の外から来た人間なので外の視点から野田を見られる。

・茂田井宏委員。野田市在住 50 年の一市民。現在は国立東京農工大学農学部就職相談室のキャリアアドバイザーと野田さくらそう会の代表をしている。

・宇佐見節子委員。福田地区上三ヶ尾出身。

・生田武士委員。二川小学校教諭。本年度は 6 年生の担任。二川小学校は遠いが学校と博物館の連携を考える機会になればと思っている。

### 3. 野田市郷土博物館・市民会館について

関根館長より野田市郷土博物館・市民会館の取り組みについて、野田市郷土博物館・市民会館への指定管理者制度導入、事業・イベント、日常の業務、今後の課題を説明（省略、質疑応答のみ抜粋）。

委員：博物館と市民会館の年間予算はどれくらいなのか。

関根：現在の 5 年間は約 5,000~5,500 万。

金山：1 期目の予算は直営時代とほぼ同額の約 4,700 万。入館者数は直営時代に比べて V 字回復をしている。

委員：V 字回復は学芸員諸氏の企画の成果だと思う。

田尻：事業数の増加に加え、むらさきの里野田ガイドの会が市民会館を拠点としていることが大きい。

委員：博物館の事業計画はどのように立てているのか。年度ごとか、数年分の中長期計画は。

柏女：指定管理受託の際に 5 年間の計画は出しているが、細かい計画は 1 年ごとに作る。

委員：千葉県内では「郷土博物館」という名称が多いのか。

金山：古くからある館は「郷土博物館」が多い。最近できた博物館は「ミュージアム」とするものが多い。当館では当初は博物館と市民会館の統一的な名称がつけられないか考えていたが、どちらもこの名称で市民に長く親しまれてきたということから、市としては名称変更の意向はないようである。

委員：限られた予算の中でどこに博物館の特徴を出していくのかを考える必要がある。

金山：「市民のキャリアデザイン」の拠点という当館のミッションはかなりユニークなもの。コンサートなど今まで博物館で行ってこなかった事業も行い、様々な市民が集まる場所にする。展覧会も一方的なものではなく、企画段階から市民が参加する。現状ではかなりうまくいっている。

委員：野田は他の千葉県の都市に比べ、文化の層が厚い。

金山：市でも当館の取り組みを評価してくれており、予算も増額されている。通常指定管理の1期目から2期目にかけて予算が上がることはない。ここは上がっている。

委員：野田は市になったのも県内で8番目。伝統があるのではないかな。

#### 4. 平成24年度事業予定

##### 田尻学芸員より平成24年度年間事業計画表に基づき説明

委員：市民アート展「陶芸」と文化祭の展示の違いは。

田尻：市民アート展は貸しギャラリーではない。団体がスペースを借りて行う展示ではなく、学芸員が企画を考えてそれに合わせて出品していただく形。冬に行う市民の文化活動報告展「野田古文書仲間の活動報告」も学芸員がサポートに回って展示を行う。

委員：「陶芸展」では作品の批評を行うのか。

田尻：作品についての良しあしを判断する展示ではない。

委員：限られた団体とだけつきあい、催しを行うと問題が出る。様々な団体が参加するほうがいい。

田尻：博物館としては会の枠組みを超えて参加してもらいたい。

大貫：最初から作品の評価はしないということで集めている。

委員：野田では同じような団体でも別々に発表を行っている。文化祭の日本舞踊などでも各団体が別々に出演する。

委員：人のしがらみにとらわれているのが野田の悪いところ。

委員：自分の作品が博物館に展示されたということで、権威づくこともあるのでは。

関根：各店舗を平等に扱うという点では22年度特別展「野田の煎餅」の際も非常に気をつかった。

委員：コンサートなどの事業予算はどうなっているのか。

田尻：コンサートなど個別の小さな事業については詳細な個別の予算はついていない。大きな枠組みとしては、企画展は100万円、特別展は560万円。展示設営が最も大きなお金がかかる。特別展は借用資料搬送のための美術梱包業者代なども高額である。コンサートの謝金は個人5,000円、グループ1万円。コンサートで使用している展示室内のグランドピアノは平成19年度に市民から寄贈していただいたもので無料。ただし年1回の調律を行っている。これは管理費から出している。

委員：展示室は音楽ホールのように見える。展示スペースが少なくもったいない。吹き抜

けは展示に生かしきれていない。特に 2 階は生かしきれていない。

委員：狭いという印象が強い。

田尻：山田守の設計では意図があってあの形にしている。吹き抜け構造の活用としては、平成 20 年度特別展「野田の夏祭りと津久舞」の際に、津久柱のレプリカを立てた。

委員：キッコーマン所蔵の醤油関係の良品は千歳工場などにある。本来はそうしたものは、この博物館に置かれてしかるべきである。

田尻：展示室の 2 階については、ストーリー性のある常設展にリニューアルした。また、むらさきの里野田ガイドの会やボランティアが位置づいたことで、今までよりも 2 階の展示は来館者に見てもらえるようになっている。昔と今ではミュージアムの役割自体が変わってきている。ミュージアムは展示だけをする場所ではなくなった。展示はミュージアムのミッションを実現する一つの方法。

佐藤：中長期的に考えれば当館の特徴である醤油というコレクションに真剣に向き合う必要性もある。

柏女：醤油は野田の強みの一つ。テレビ局などが銚子などに醤油の問い合わせを行っても、そこから紹介されて当館に回ってくることもある。

### ●博学連携に関する意見交換

金山：5 年を終えて館の運営は安定的にできるようになっている。今後は学校との連携を強めていきたい。

委員：直接子供が体験できるようなものもいい。二川小学校でもそうだが、学校によってはアクセスの問題があり、博物館に来るまでで一苦労。今年うちのクラスで行ったのは社会教育課の出前授業。火起こし、黒曜石ナイフの体験など。市内の小学校 20 校中 18 校で行っている。学校の授業のタイミングと非常にあっている。

委員：もの知りしょうゆ館などへの工場見学も授業単元に合わせて来る。

委員：教育バスを取ることは難しい。

田尻：社会教育課の出前授業はどのような方法で申し込むのか。

委員：チラシが 4 月頭に回ってくるが、チラシが来てからでは間に合わないため、早めに申し込んでいる。

委員：もの知りしょうゆ館もチラシを配っている。

田尻：当館でも生活文化展を学校の授業に合わせて春に行い、学校にチラシを送るなど広報活動は行っているが、実績が上がらないのが悩みである。

委員：福田地区の社会福祉協議会主催で小学校でコンサートを行っている。学校の都合を聞いてからではないと子供が来ない。

関根：博物館まで来ると半日コース。出前ならば学校まで学芸員が来てくれるし、時間割に合わせて実施できる。

委員：学校から頼まれることもある。生活道具などのモノを持って行って話をする。

関根：博物館の出前セットを作ることがいいのか。

金山：博物館としては社会教育課と同じプログラムにして競合するというつもりではない。どうしたら学校が博物館を利用できるか考えたい。現場の教員の意識が向いてこないと感じる。

委員：教員の方でも出前に対する意識が非常に強いと思う。バスは前年度に予約する形なので非常にとりづらい。

金山：全体的な傾向として学校外に出ること自体が減ってきているのか。

委員：工場見学などは他の学習とリンクしており定期的になっているためバスも取る。既存の年間事業計画以外の部分で追加で何かを行うことはしない。

田尻：バスを使わなければならないなどの条件は他館でも一緒のところが多いが、他館では多くの学校が博物館に来ている。当館は少ない。

金山：バス利用は難しいとしても、まずは近場の学校に利用してもらいたい。授業で博物館に行くかどうかを決めるのは教務主任の先生か。

委員：教務主任や社会科担当の先生だけで決められる問題でもない。博物館に来たらこういった資料があつてこういった学習ができるといったことが各学校に浸透していない。出前授業をする中で紹介をしてもらえれば先生もわかるのではないか。

金山：先生に働きかけるには野田市教育研究会しか場所がない。

委員：福田第二小学校の校長などには話すことはできる。そういった学習時間を設けることができるかどうか。1校で行えればまた変わってくる。

### ●まちづくりと商店街活性化に関する意見交換

金山：当館の活動がまちづくりに絡む「ことおこし」につながっていけばいいと考えている。22年度特別展「野田の煎餅」もその一環で開催した。ただ、次につなげることが難しい。

委員：今まで博物館と商店街活動とをつなげて考えてたことはなかった。平成21年度の「まちなみ提案」展の関連で行ったまちかど博物館はよかったが、博物館が加わってのまちの活性化についてはイメージがわからない。

金山：今、当館の入館者の半分は市外からである。博物館は呼び水で、市外から野田に来た人にいかに市内商店にお金を落としてもらえるかを考えたいと思っている。地元の経済活性化効果につながる。

委員：博物館よりもガイドの会の方が効果が高いのでは。

委員：日曜日は閉まっている店も多い。今度本町通りに出来る買物弱者のための買物便利拠点には、地元の物産を置くコーナーもできるようである。

委員：買物便利拠点は駐車場がなく、物品搬入路も狭いため品物をおろしにくいと聞いた。

委員：市長としてはキッコーマン跡地の駐車場を買ってそこに作りたいようである。

金山：他地域では、商店街活性化として若い方に空き店舗を貸して古着屋やカフェをやっ

ているが、野田でそれはできないのか。

委員：商工会議所と市の助成で菅原靴屋の場所にチャレンジショップを 2 年間行っていたが、補助金が切れて終わってしまった。野田の商店街の通行量ではもたなかったのではないか。菅原靴屋も貸店舗のつくりではない。改築しないと使えないという弱点もあった。菅原靴屋に限らず本町通り沿いの店舗を貸店舗にするには、改装が必要。

関根：そういった店舗は単独ではなく複数存在しないと成功しない。

委員：ヨーカドーが無くなり市役所が移転してから本町通りの通行量は減った。

委員：ここまでの話を聞いていると、博物館側からは、いわゆる商売人の視点からの意見がなかったように思う。先生的な意見が多かった。博物館では来館者の意見をどう吸い上げているのか。例えばアンケートの精査をどのようにやっているのかが知りたい。私の店でいえば、いい煎餅を作るのは当たり前で、それをいかに広めるのかを考えていく。来館者に対してアンケートなどでどういう意見を聴いているかどうかなども次回以降の懇談会で見られればいい。

## その他

### ●次回博物館懇談会の日程

- ・平成 24 年度第 2 回博物館懇談会は 11 月 14 日（水）17 時～19 時。